



アスペンに行ってきたこと
 占冠中2年 藤岡 拓雄

私は、1月に占冠村の交換留学プログラムでアメリカのコロラド州アスペンに行ってきました。人生初の海外でしたが、とても楽しむことができました。

その中で印象に残っていることが、二つあります。一つ目は「スキー」です。私は、日本のみならずアスペンのみならず一緒に、スノーマスという所でスキーを丸1日しました。そのスキー場はとても大きく、たくさんの観光客が訪れていました。私は、アスペンのみならず森の中のコースを滑りました。私は、普段森の中などを滑ることがなく最初は少し恐怖心を感じていました。



アスペン中学生短期交換留学事業(派遣) 参加報告

抱いていましたが、みんなノリが良く、私も楽しんで滑ることができました。ですが、森の中を滑ることに慣れてきた頃に下に埋まっていた切り株に気付かず足を滑らせて転んでしまいました、けがをしてしまいました。ですが、転んだときは全く痛みがせず、むしろ楽しいくらいでした。それもアスペンのみんなが楽しい空気感を作ってくれたからだと思います。

二つ目は「食べ物」です。私は、アスペンでたくさんジャンクフードを食べてきました。ピザやハンバーガー、タコスにマフィンなど、普段なら食べきれないと思うほどの量でしたが、どれもやみつきになる味でした。朝食からハンバーガーを食べた後にマフィンなども食べましたが、とても量が多かったにも関わらず全部食べられてしまうほどおいしかったです。その他にも、お昼ご飯にみんな食べたいピザが自分の顔よりも大きいものでした。

やはり、日本にずっと住んでいると当たり前だと思えていたことが、海外では当たり前ではないということを実感しました。また、こうした違いは、実際に現地に行って体験してみないと分からないと感じました。このような学びをこれからも生かしていきたいと思っています。

1月4日から14日までの間、姉妹都市である米国コロラド州アスペン市との国際交流事業「アスペン中学生短期交換留学事業(派遣)」が行われ、村内の中学生および後期課程生がアスペン市を訪問しました。

参加者たちは、アスペンの地でどのようなことを学び、経験してきたのでしょうか。参加者それぞれの感想についてご紹介します。

参加者

中学生・後期課程生3人
 引率者3人

アスペンで印象に残ったこと

占冠中2年 井川 紡

今回私たちは、アスペン交換留学に参加させていただきました。その活動を通して印象に残った出来事が三つあります。

一つ目は「ロサンゼルスからの飛行機が遅延した」ことです。本来の予定では14時ごろに離陸予定だったのですが、天候が悪化し19時ごろに離陸してしまいました。そのせいで、アスペンに到着したのが22時になり、1日目はほとんど移動が終わってしまいました。本来の予定でも1日目は特に何もせずに過ごす日でしたが、せめて何かやりたかったなと思いました。

二つ目は、「学校が日本と違う」ことです。私たちはこの交換留学の間にいくつかの

学校を訪れました。そこでは「スナックタイム」という軽食を取れる時間が2回ほどありました。日本の学校では到底ありえないような時間で、驚きと同時に「日本にもあったら良いな」と思いました。

また、日本では自分たちで教室等の掃除をするのが基本ですが、アスペンでは清掃員の方がいるため、生徒が掃除をする必要がありませんでした。これらのおかげで、日本とアスペンの学校の違いが明確になり、日本の厳しさを改めて実感しました。

三つ目は「お店の規模とシステムが違う」ことです。今回の交換留学の活動の一環としてスーパーマーケットに買い物をして行きました。その際に行ったお店はともかく、売っているものが多種多様でした。食品から灯油まであり、日本のスーパーよりも

ず自分から話しかけてみようと思えるようになりました。その結果、残りの留学生生活を前向きな気持ちで過ごすことができ、多くの貴重な経験をすることができました。

3日目にアスペンの学校を訪問したときに、元ALTのティンバーさんとグレイソンさんに会いました。アスペンにいらして話を聞いてくれたおかげで、私の人見知りも少し良くなったと感じています。アスペンの学校を3校訪問したときに同年代の子と一緒に授業を受け、分からないことは丁寧に優しく教えてくれたり、自分よりも年下の子が学校を案内してくれたり、とても優しく接してくれました。日本の学校とは授業のスタイルが違ったり、やっている教科の内容が難しかったりと違うこともたくさんありましたが、ルールが難しくなく時間も臨機応変に調整できて、毎日通えたら楽しそうだなと思いました。

この留学を通して、言葉が違っても伝えようとする気持ちがあれば相手に届くのだと学びました。うまく英語が話せなくても知っている単語をつなげ、ジェスチャーなどを交えて伝えようとする、相手も一生懸命理解しようとしてくれました。「伝わらないから言わない」ではなく、「伝えようとする努力」が大切なのだ分かりました。また、不安な気持ちがあっても、一歩踏み出すことで新しい経験につながることも実感しました。

最後に、私を温かく迎え入れてくれ、10日間お世話になったホストファミリーと、旅に出るまでお世話になった方々、そしてこのような貴重な経験ができるアスペン短期交換留学に参加させてくださったことに、心から感謝しています。ありがとうございます。



今回のアスペン交換留学で、今までの人生ではなかったとても貴重な体験をすることができました。最後になりますが、このような貴重な時間を作っていただいたことに感謝申し上げます。そして、今後のアスペン交換留学の発展に期待しております。

異文化体験を通して

占冠中学校教諭(引率)

木村 華央里

アスペン市と姉妹都市関係にあり、30年以上国際交流が続いている占冠村。昨年、前任校にて派遣事業のお話を聞いて以来、いつか参加してみたいと思っていました。ついに念願だったアスペン訪問が叶いました。

10月に引率で来日されたルーク先生のご自宅に滞在させていただき、充実した日々を過ごさせていただきました。アスペン市内ツアーや歴史協会への訪問を通して、多くのことを聞き取る機会が得られました。また、教員の立場として、現地の小・中学校を見て回り、児童・生徒の授業と一緒に参加することができ、大変勉強になりました。



特に、コミュニケーションスクールでは、ルーク先生が受け持つ児童の皆さんと一緒にゲームをして仲を深めることができているのが一番の思い出です。ルールを知らない私に、「こうしてみるといいよ。次やってみる？」と親切に教えてくれる姿に、子どもたちにとって、相手に言葉が通じるかどうかは重要ではなく、一緒に遊ぶ仲間として私を受け入れてくれていたという事実がうれしくなっていました。同時に、子どもは遊びを通して言葉の壁をあっさり超えていくのだなと改めて感心してしまいました。

私自身、学校で英語を教えていると、どうしても完璧に受け答えをしなければならぬと身構えてしまう児童・生徒たちを見てきたので、英語はあくまでも「コミュニケーションの道具」であり、「楽しんで交流することがまずは大切」ということを今後も伝えていければと改めて思いました。もちろん日本の学生には、受験勉強という現実もあり、受験勉強という現実もありません。ただ楽しめれば良いというのも語弊はありますが、まずは対話を通して、言語の面白さや楽しさを感じてもらえればと思っています。

今回の訪問を通して、ここでは書き尽くせないほど多くの素晴らしい体験をさせてもらいました。自分が中学生のときにもこんな体験ができていたら・・・。30年以上も続いている占冠村の交換留学事業は素晴らしいです。これまでの事業に携わり、交流を深め続けるに導いてきた諸先輩方に敬意を表すとともに、ぜひ今回の留学で得た貴重な経験が生徒たちの未来をより豊かなものに、今後の生活に生かされ、占冠村とアスペン市の姉妹都市交流が今後ますます深まることを願って、お礼に代えさせていただきます。本当にありがとうございます。

ただいま、アスペン

ALT(引率)
アシユリー・スプレング

今回の交換留学でアスペンに行けたことは、正直、私にとってどこか現実離れした体験でした。10代の頃には交換留学に参加することができませんでした。今回の旅では英語の先生として同行する形で実現し、私にとってかけがえのない経験になりました。子どもの頃からの夢を、今こ

ただきました。これらの体験を通して得た学びを、今後、教育現場に役立てていきたいと考えています。

最後に、今回の派遣事業の実施にご尽力いただいた関係者の方々に、深く感謝申し上げますとともに、本事業が今後も継続的に発展していくことを祈念いたします。

姉妹都市交換留学事業に参加して

トナム学校教諭(引率)
芳賀 秀樹

このたび、姉妹都市アスペンへ中学生短期交換留学事業引率の立場として初めて参加させていただきました。トナム学校や占冠中学校から3人の生徒が約10日間の滞在を通して、日々成長しながら交流を深めていく姿を間近で感じることができました。自分自身もかけがえのない貴重な体験をたくさんさせていただきました。占冠村、教育委員会、コリーさん、アシユリー先生、アスペン姉妹都市委員会、そして生徒や引率団を温かく受け入れていただいたホストファミリーの方々をはじめ、ご支援いただいた多くの方々に改めて感謝を申し上げます。私にとって、アスペンは生まれて初めての訪問でしたが、どこか懐かしさを感じる

うして実現できた胸を張って言えます。そして、また次も実現できるかもしれないと思うと、今からワクワクしています。

アスペンでの滞在中は、占冠の生徒、アスペンの生徒や先生方、そして一緒に参加してくださった引率の皆さんとさまざまなアクティビティに参加したり、ホストファミリーと過ごしたりと、本当に素晴らしい時間を重ねることができました。また、先生方も生徒たちも、英語で話そうと挑戦したり、初めてクロスカントリースキーに挑戦したりと、自分の殻を破ってさまざまなことにチャレンジする姿がとても印象的でした。その姿に刺激を受けて、私自身もスノーボードなど、長年離れていたことにも一度挑戦してみようという気持ちになりました。スキーレンタルを受け取ったとき、スタッフの方から「最後にこの山を訪れてから12年ぶりですね」と言われ、思わず驚きました。それでも、また挑戦できて本当に良かったです。自分がスキーをやめた理由を思い出してしまっただけでも・・・。

一方で、個人的には多くの困難もありました。特に大きかったのは、家族を恋しいと思う気持ちと、もう1週間も滞在できないと実感したときの切なさです。家族とは普段



居心地の良い土地でした。自分が生まれ育った北海道も山に囲まれ自然豊かで、長い冬はスキーなどのウィンタースポーツに慣れ親しんできたからでしょうか。しかし、生徒たちと滞在6日目に訪れたスノーマス・ヴィレッジは、アスペンにある四つのスキー場の中でも一番広くてリフト数が20もあり世界中からの観光客も多く、そのスケールの大きさに圧倒されました。標高も日本のスキー場とは比べものにならないくらい高く、富士山でスキーしているようなものなので、酸素が薄く、すぐに息切れするという初めての感覚を、訪問前に聞いていた通り味わうことができて、とても楽しめました。そして、10月に占冠を訪れた5人のアスペンの生徒が授業免除で全員集結してくれて、占冠の生徒たちの体調やスキーのレベルを気遣いながら、自分

たちの庭であるコースを優しく案内してくれたり、たくさん話しかけてくれたりしました。昼食やアフタースキーの遊技場でのアクティビティにおいても、生徒たちのたくさんの笑顔を見ることができたのが一番の思い出です。他にもスケート、クロスカントリー、そり滑りなど、現地の学校訪問などのアクティビティでは、小中学生や園児たちに混ざって一緒に楽しんでいました。

今回、占冠村引率団のコリーさんと一緒にお世話になったホストファミリーのファミリー家は、両国の派遣事業を毎年統括しているジョーリンさんの義理父母のお家。ホストマザーのジャンさんは元大学の先生で、日曜教会へ連れて行っていただいた際はオルガンの演奏担当でした。ホストファミリーのピーターさんは現役スキーインストラ

からとても仲が良いので、これほど長い間離れて過ごすことは想像以上の試練でした。ただ一つ願うなら、家族もずっと一緒に過ごす時間がほしかったということです。アスペンのホストファミリーの皆さんも、占冠の生徒たちもずっと一緒に過ごしたかったと、きつと口をそろえておっしゃると思います。

ほろ苦い別れではありませんが、次のグループの学生たちとまたアスペンに戻ってこられる日が待ち遠しいです。

今年のグループの皆さんが一生忘れられない思い出をたくさん作り、交換留学の仲間としてこれからも交流を続けてくれることを願っています。そして、私をここまで導いてくださった全ての方々に感謝します。これまで、そしてこれからもこのプログラムを支え続けてくださる占冠村の皆さま、本当にありがとうございます。この事業は、子どもから大人まで、多くの人にとってかけがえのない思い出になっています。最高！

